



Relive Journal



“りらいぶ” ジャーナル No.34

2020年 早春号 (2月20日発行)

< “りらいぶ” 憲章 >

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

<目次>

1. カルタゴに想いを馳せるチュニジア旅行（楽しい人生を求めて）
(R&I顧問・会員 渡嶋 八洲夫)
2. 北海クルージングとフィヨルド見物
(会員 山本 昌弘)
3. 川島 康生 先生 講演会「如何に人生100年時代を迎えるか」を拝聴して
(志水 清紀)
4. 関西支部行事のお知らせ
(関西支部長 阿賀 敏雄)
5. 東京地区行事のお知らせ
(事務局)
6. 伊豆の大会にでました
(会員 鳥居 雄司)
7. 喜寿を振り返って【第三部】
(会員 伊丹 淳一)
8. 18歳と81歳
(会員 ヤスコ Wild (杉山 泰子))
9. 2019年11月21日 川島 康生 先生 講演アルバム
(会員 石尾 賢一)



1. カルタゴに想いを馳せる チュニジア旅行（楽しい人生を求めて）

元キャメロン会 会長
R&I 顧問・会員 渡嶋八洲夫

2019年9月23日～30日 旅行社企画のツアーリーに参加した。往復とも全行程ビジネスクラス利用とあったのでシニアに優しかろうと参加することにした。それでも22時間のフライトには少々疲れた。



筆者から送っていただきましたが、フライトはお疲れでしたが、ビジネスクラスのランチやデザートはやはりエコノミーと違いますね。

A. チュニジア

アフリカ北端に位置する。地中海に面しイタリア・シチリア島までの距離は400kmと近い。フランスの保護領の影響受け国民の大半はフランス語を話す。イスラム国ではあるが、ビシャブを着用せず、レストランでも酒が飲める。西欧に近い文化がみられる。

国土面積は日本の40%、人口は1000万余。通貨はチュニジア・ディナール(1 TNZ=40円)。紀元前フェニキア人によって作られた「カルタゴ」はローマ帝国に7世紀までローマ帝国の支配を受け、さらにシリアに支配され、19世紀にはフランスの保護領となりその後独立した。首都チュニスはエーゲ海の島々と同様家屋の壁は1915年政令により青と白に統一されて街並みは美しい。ローマ時代の遺跡が数多く残されており保存状態はローマ遺跡よりは良い。全国土の50%が砂漠であるが37%が農地、産物は小麦のほか、オリーブは世界5位でバスからはオリーブ畑が続く。外貨不足なのだろう空港では自国のディナ

ールは使えず支払いは米ドルのみとのこと、これには些かびっくりした。

B. 航程（カタール航空）

（往路）成田発 22:20→03:50 着ドーハ
ドーハ発 08:20→12:15 着チュニス
(復路) チュニス発 16:00→23:15 着ドーハ
ドーハ発 02:10→18:40 着成田

日本との時差がマイナス8時間あり現地での時間はマイナスして納得した。機中はフラットベッドで就寝、ドーハ空港ラウンジで休息十分であったが片道22時間強の旅は堪えた。

C. ホテル

① ザ・レジデンス 4星

海岸のリゾート地に位置するデラックホテル。タラソテラピー、SPA、プールが充実している。プールサイドで腰かけて、静寂さを楽しんだ。



ザ・レジデンス・ホテル中庭のプールサイドと
ホテル玄関

② ラ・カスパ 5星

城壁に囲まれた街カイルアンの中心部に位置する。近代的な設備を持ち合わせながらアラベスク模様のタイルや地方特有の絨毯が独特な雰囲気を醸し出している。広大な庭は美しく、地中海海岸まで10分程度と近い、近所には大きなスーパーがあり便利だった。

D. 観光

① エル・ジェムの円形劇場

3世紀のローマのコロッセオに匹敵する巨大な円形劇場。円形劇場は周囲400mに及び外装は3分の1が破壊されている。3重の層をなすアーケードで囲まれた重厚な姿



は当時のまま残されている。
(1973年に世界遺産登録。)

② スース旧市街

スースはチュニジア中東部の地中海を望む港町で現在もチュニジア有数の都市。現存する旧市街はイスラム勢力によって築かれた。外敵からの攻撃に備え堅固な城壁に囲まれ、通路は入り組み密集した街並みが続く。商店が密集しており狭い道路にも商品があふれています。大学生の孫に牛皮の財布を買ったが値切るのを忘れた。値引きは常識で30%~50%のディスカウントと後で聞いた。

(1988年に世界遺産に登録)

レストラン ウナ・ストーリア・デッラ・ヴィータで昼食を取った。

③ カイルアン

7世紀に北アフリカで最初にイスラム教が発祥した都市。9世紀から10世紀にはアグラブ朝の首都として栄えてきた。北アフリカ最古のグランド・モスクがあり、メッカ、メディナ、エルサレムに次ぐ第4の聖地とされている。科学技術の中心地であったカイルアンでは高度な技術を駆使した巨大な貯水池が建設された。単なる池であるが古代では大変だったことだろう。



左は巨大な
貯水池の写真

④ カルタゴ遺跡

紀元前9世紀、海洋民族のフェニキア人はこの地に都市国家を築いたのが町の始まり。領土を北アフリカ沿岸からスペインのイベリア半島の半分まで拡大した。しかしその後ローマと衝突、ポエニ戦争の結果、紀元前146年カルタゴは壊滅した。

地中海見渡すレストランでシーフードの昼食をとった。

⑤ ドゥッカ遺跡 バルレード博物館

アフリカで最大級の規模を持つローマ遺跡。100年前に発掘され、市場、浴場、劇場のほか貴族の館の床から発見された色とりどりの天然石をふんだんに使った見事なモザイク絵画はバルレード博物館に保管展示されており鑑賞した。



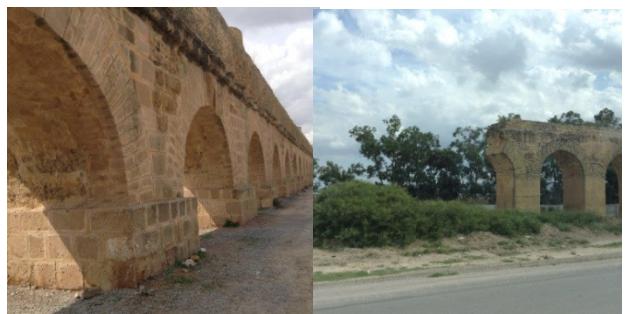
スポーツ、漁業者魚捕獲、農業活動等の生活を描写したもの、人物画、単なる図形的なもの等々興味あるモザイクで作られた風景を鑑賞した。

⑥ チュニス旧市街（メディナ）

7世紀にアラブ帝国が勃興しカルタゴが没落するとアラブの街として発展した。9世紀にグランド・モスク完成、次第に市場が形成されてきた。7世紀に始まったアラブ・イスラム様式の都市計画がそのまま現存、貴重な700に及ぶ貴重な建物が残っている。

(1979年世界遺産に登録された)

⑦ ザグアン水道橋



水を長距離で運ぶために作られた巨大な構造物、水道橋を見ることができた。水を長距離



に運ぶために単に傾斜を付けるだけでは長距離では水を運べない、コーナー部では特殊な形状を用いて水を加速したという。

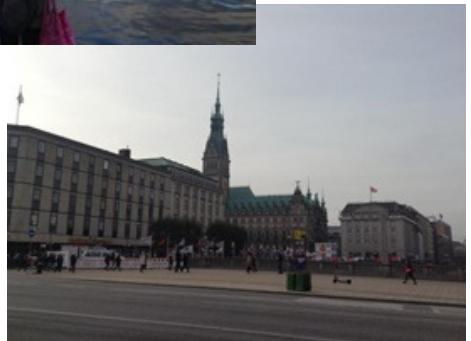
フェニックス・デ・カルタゴで昼食を取った。



この時期大統領選挙運動中、街中には関連したポスターが多くみられた。土産品としてナツメヤシの菓子とオリーブ油を購入した。ホテルは豪華で静けさが印象的だった。

旅行では数回行ったことがあるが船旅では初めてである。ノルウェーでは北端のトロンハイムまで行ったことがあり、船では初めての経験である。フィヨルドの見物はニュージーランドのミルフォード・サウンドで見たことがあり、北欧のフィヨルドを見るのが今回の旅行の目的の一つでもある。

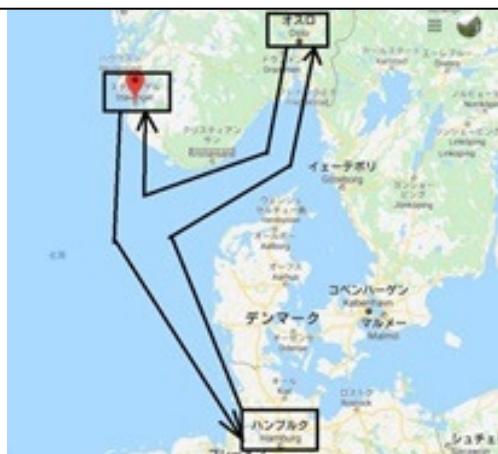
旅の出発点であるドイツ・ハンブルクはドイツ北西部の経済の中心地で首都ベルリンに次ぐドイツ第二の町である。歴史的にも古く、港湾の都市として古くから栄えた街である。最近は多くの新しい斬新な建築物も建てられ、活況を呈している。街の中心部から少し離れるとハンブルクの原点、赤レンガの倉庫街があり世界最大といわれ、世界遺産に指定され今でも使用されている。ハンブルクの象徴と言われる市庁舎が町の中心に立っている。この市庁舎は比較的新しく19世紀末に建てられ、港湾都市として発展を謳歌している時代に建てられた豪華なものである。高さ112メートルもあり観光客も中を見学できる。



写真上は赤レンガ倉庫街、下はハンブルク市庁舎

2. 北海クルージングとフィヨルド見物

会員 山本 昌弘



今回は北欧の北海クルージングへ出かけた。クルージングはドイツのハンブルクを出て、ノルウェーの首都オスロに泊まり、ノルウェー海のスタバングルへ行き、ハンブルクへ戻る約1週間の短いルートである。ノルウェー・オスロは陸地の

市内中心部に横たわるアルスター湖はエルベ川をせき止めて造られた人造湖で、新市街と旧市街に渡って2つに分かれて作られている。アルスター湖を観光するクルーズ船に乗船して湖から眺める旧市街の景観は最高の眺めである。日中のク



ルーズだったので昼間の景色であるが、夜のクルーズでは湖に広がる市街の夜景が素晴らしいだろうと想像していた。湖の周辺には立派な豪邸が並んでおり、富裕層が沢山住んでいるようである。



アルスター湖の風景

今回の北海クルージングはキュナード・ライン社のクイーン・メリーア2でかの有名なクイーン・エリザベス号と姉妹船である。英国籍の船であるが現在は米国のカーニバル社の傘下に入っている。これまで何度もクルーズ船に乗船したが船内は豪華で質実剛健といった感じの立派な客船である。



クイーン・メリーア2

今回のクルーズはドイツ・ハンブルク発着のクルーズで、ドイツ人が多数乗船しており、珍しく船内の公用語としてドイツ語が使われている。その上、今回のクルーズの特徴はドイツ人の若きアイドルともいわれる David Garrett が乗船して3回の公演が行われ、乗船客には1回のチケットがついている。そのせいか David のドイツ人の熱狂的なファンがこれを目当てに乗船して多数の

老若男女で賑わっていた。David はクラシックのピアニストであるが大衆受けするように語りを入れた独演が象徴的である。堅苦しいクラシックと異なりモダンクラシックともいえ、この魅力に取りつかれて多くのファンがいるようで、ドイツの若き国民的アイドルのようである。



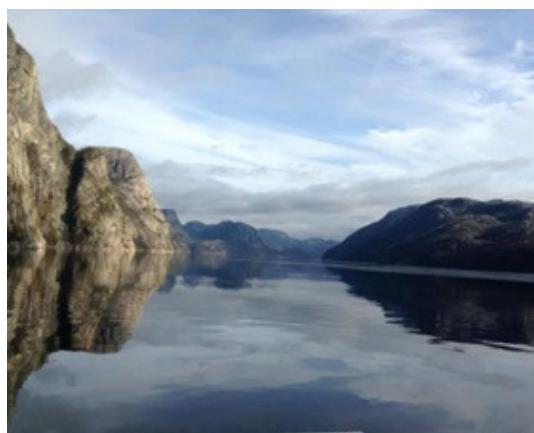
David Garrett のライブ

ノルウェーのスタバングルはノルウェーの西南に位置し 1970 年代に北海油田の基地として急速に成長したノルウェー第四の都市である。17 世紀の古い家屋が立ち並び、町の近くのブライア湖の近くに旧市街がそのまま残っている。真っ白で統一された木造建築は素晴らしい雰囲気を作り出しており、建物の形は違うが一瞬トルコのアルベロベロを思い出させる感である。ブライア湖のほとりの小高い丘の上にある石造りのスタバングル大聖堂は 12 世紀初頭に建立されたものでノルウェーでは最も古いものようである。中世に建造された建物の中で現在に至るまで損傷を受けていない数少ない寺院の一つである。



スタバングル大聖堂

また、スタバングルはノルウェーのリーセフィヨルドの玄関口である。



リーセフィヨルド

フィヨルドはスタバングルから 25Km 程東に行ったところにあり、全長 40Km 以上もある巨大なものである。リーセフィヨルドはノルウェーの五大フィヨルドの中で一番南に位置し、ディズニーのアナと雪の女王のモデルになったプレケストーレンは有名である。高さ 600m の巨大な断崖で、クルーズ船から上を眺めると壮大で、教会の説教壇という意味が付けられている。



プレケストーレン

クルーズ船でハンブルグを出発して翌々日早朝にノルウェーの首都オスロに到着した。ノルウェーの首都オスロは外海から 100Km ほど奥まったフィヨルドの奥にあり、船で入ってくるとこれが一国の首都と思えないほど緑が多く静かな町で、陸上から到着するのとまったく違う光景である。オスロの起源はノルウェー最後のバイキング王ハーラルローデが 1050 年に開いたとされている。ノルウェーの人口の 50% がオスロ周辺に住んでおり、現在でも年 1 万人が増加している。市の中心部を王宮から中央駅まで続くオスロの

目抜き通りであるカール・ヨハン通りは多くの住民や観光客でにぎわっている。

カールヨハン通りの西の端にノルウェー王宮が造られており、現在でも王様が住んでおられる。王宮と言えば立派なものを想像しますが以外にシンプルなものである。



ノルウェー王宮

ヨハン通りの王宮の反対側、東の端にはオスロ中央駅があり、スエーデン、デンマークなどの都市から長距離列車が発着して大勢の人でにぎわっている。多数の市民や観光客が集まるオスロの中心には立派なオスロ市庁舎が建造されている。



オスロ中央駅

オスロ市庁舎

長い年月をかけて 1950 年に完成したもので、二つのタワーを持つ煉瓦造りの建物で北ヨーロッパの典型的なデザインになっている。ノーベル平和賞の授賞式が行われるメインホールの壁画は実に立派なものである。

20 年ぶりくらいに北欧を旅行した。北欧の街並みはゆったりとした落ち着いた様相で、住んでいる人々も悠々とした感じである。さすが福祉国の人々がする住みやすい国のように印象付けられて帰国した。

(記 2019.12)



3. 川島 康生 先生 講演会 「如何に人生 100 年時代を迎えるか」 を拝聴して

大阪大学医学博士
志水医院（泌尿器科・腎臓内科）院長
志水 清紀



今回は、「如何に人生 100 年時代を迎えるか」とのテーマで川島康生先生よりご講演を頂きました。まず、先生の心臓外科医としての仕事の中でライフワークとされた「心臓移植」について話されました。1960 年代、心臓外科医の目標は「心臓移植」でした。そして先生はそれを目指して 1964 年に渡米しましたが、当時は世界でもまだ心臓移植は行われておらず、第 1 例目の症例は 3 年後の 1967 年でした。更に、わが国で心臓移植が行われたのは 30 年以上経った 1999 年です。第 1 例目が阪大病院、第 2 例目が国立循環器病センター。どちらの病院も執刀医は川島先生のお弟子さんです。その後、わが国でも症例は増え、2019 年までに 498 例の心臓移植がなされました。その半数以上が阪大病院と国立循環器病センターでした。成功率は 2 年生存率で 90%、5 年生存率で 75% と非常に良いそうですが、その数は欧米の 10 分の 1 以下です。先生は、ドナー（臓器提供者）が少ないので日本独特の宗教観に原因があるのではないかと云われました。そのため、動物を使った異種移植や人工心臓の研究もされており、人工心臓に至っては、2019 年より永久使用も始まりました。

次に、今回の「如何に人生 100 年時代を迎えるか」についての話です。このテーマを①人生 100 年時代をどのように生きればよいか ②どうすれば人生 100 年時代を迎えることができるのか と云う 2 項目に分けて話されました。

①人生 100 年時代をどのように生きればよいか

- ・ 人生は楽しくないといけない
- ・ お金は条件の 1 つでしかない
- ・ 健康であることはお金以上に大切な条件である

最近よく云われる「健康寿命」と「平均寿命」に触れられ、2016 年のデータでは男性で 9 歳、女性で 12 歳の差があります。以前には「死の病」と云われた結核は抗生物質の発明によりほぼなくなりました。癌も検診や診断学の進歩で早期発見が可能となり、治療も内視鏡手術、ロボット手術など新しい技術も出てきています。万が一、再発・転移が見つかっても抗癌剤、分子標的薬、免疫療法といった新規治療薬により今や慢性疾患となりつつあります。川島先生は、今後は「認知症」が問題だと云われました。「脳」や「精神」の問題のために非常に複雑で、この分野での更なる研究が望まれるとのことでした。

長生きをすると余生が長くなるため、余生をいかに楽しく過ごすのかが大切です。学生時代は大学のオーケストラで指揮者を務めほどの音楽好きで、卒業後は外科医としては大学教授を務められた後、定年後は再び音楽でオペラを作曲するほどの才能をお持ちのご友人や、医大で教授を務め、その手腕を買われ学長、理事長まで務められた後、やっと好きな絵画に専念でき、今では高野山の寺院に天井画を頼まれるほどの才能をお持ちのご友人。川島先生は自分には友人のような才能はなかったが、心臓外科医の仕事が合っていて楽しかったと。退官された今もその軌跡を本にしようと執筆中だ。今もやりたい仕事があると云われました。

「仕事が樂しければ余生も樂しい」

医者ばかりではありません。上場企業の社長まで務められた後、阪大の大学院生となり論文を書き上げた方もいます。大学の中にはセカン



ドステージ大学と呼ばれる新しいコースが出来ているところもあります。タクシードライバーには、定年後に好きな車の運転が高じてタクシー会社に再就職された方も多いそうです。再就職も自分が楽しめる仕事。いや、むしろ再就職だからこそ「自分が楽しめる仕事」なのかもしれません。また、ボランティアワークも生き方のひとつです。先生の実のお兄さまは、93歳で趣味の自転車やテニスを楽しみながら献血のお手伝いをされています。移転前の国立循環器病センターには18年間もの長い間、花壇の手入れをして患者さんを癒し、職員さんを和ませた「花壇の母」なる女性がいたことも話されました。誰かの役に立つことも生きがいであり、人生には実に様々な楽しみ方があるとの実例をお示し下さいました。そして、人生を楽しむためには、健康が大切である。これからは、フレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）、サルコペニア（筋肉量が減少して筋力低下や身体機能の低下をきたした状態）、ロコモティブシンドローム（運動器の衰えが原因で移動能力の低下をきたした状態）に注意しなければいけないと。

先生は、この項の最後にあたり、「自分はもう歳だから。」と云うのは禁句であるとおっしゃいました。

「人生は将来しかない。今が一番若い。」

②どうしたら人生100年時代を迎えることができるのか

2019年、全国で百歳を越えられた方は7万人以上にのぼり、人口40万人の豊中市でも144人おられます。「人生100年時代」の定義とは、「同年代の半数が百歳を迎える」ことです。そこで、先生は人生を3つの期間に分けて話されました。

- ・ 教育のステージ
- ・ 仕事のステージ
- ・ 引退のステージ

仕事のステージでは、平成・令和の時代となり雇用形態も変わりました。私のような昭和の人間が知っている「終身雇用」はなくなってしまいました。そのため、「その仕事に向いているか？楽

しめるのか？」自分のるべき仕事をしっかり考えることが大切です。それには教育のステージから若い人には、人生について深く考える機会を与えることが重要です。川島先生ご自身も豊高時代には体操部の主将として活躍され、将来は体育教師を目指しておられましたが、けがのため断念されました。次に、当時は湯川博士がノーベル賞を受賞されたこともあり物理学を志されました。しかし、京大の入学試験の成績が思わしくなかったことから一度は工学部に進みましたが、将来に不安を感じたため、阪大の医学部に入学しなおしました。けれども解剖学など基礎の講義には興味が持てず、治療の効果が目に見える外科を専攻され、心臓外科学に出会われたそうです。やりたいことをやらないと人生は楽しくならない。若いにも情報を与え、一番好きなことができるよう周りの人が協力してあげないと云われているようでした。また逆に、嫌でもがまんして頑張っていればおもしろくなることもあります。ダイキンの社長さんは新入社員のころ1週間無断欠勤したことがあるそうです。バイタリティーのある方は負の因子も力に変えていくし、その能力を見出し、伸ばす上司もいるのだと思いました。また、先生の大学の先輩の方で、好きな絵を描きたく、親に云われて学位までは取ったが、医者はせずに漫画を描いていたと手塚治虫先生のお名前も出てきました。当時のご本人の葛藤は多々あったのでしょうか、医学部で学ばれた「人間愛」はその作品にも出ており私たちの世代の多くも影響を受けております。

人生は重き荷を負いて長き道を歩むが如し
それはとても辛いことではあるが、それは人生最大の楽しみである
仕事が楽しいから人生は楽しい。仕事が義務なら人生は地獄だ。

講演の終わりに際して、江戸時代の狂歌を挙げられました。

「百居ても 同じ浮世に同じ花 月はまんまる
雪は白妙 鯛屋貞柳」

貞柳は大坂御堂前にあった「鯛屋」と云う屋号の菓子商に生まれ、これは81年の生涯の辞世の狂歌だそうです。これを先生は、



「百居れば 浮世変われど吾が心 月のまんまる
雪の白妙 川島先生」

と詠されました。

「人生百年時代になっても、まんまるい、真っ白な心を持っていればいつまでも楽しい人生を生きられたのではないかと反省している。」と先生は云われました。しかし、川島先生は、純粹な心で真摯に医学と向き合い、その成果を教育者として後進に伝えて来られた方だと思います。だからこそ。ご自身が歩まれた道だからこそ、この狂歌が詠めるのです。

大変、意味深いご講演を拝聴することができ、いろいろと考えることができました。明日からの力を頂けた良い一日でした。

（川島 康生 先生 講演会の関連写真
アルバムは最終頁に掲載しています。
事務局より）

4. 関西支部行事のお知らせ

（関西支部長 阿賀 敏雄）

関西支部では、以下の行事を予定しております。
皆様のご参加をお待ち申し上げております。

◆株式投資教室

講師：柏原 幾松（新生投資クラブ代表）
毎月第3 土曜日 11:00～13:30
会場：ホテル・アイボリー
参加費：2700 円

◆ベルウッド歌声喫茶

3月23日(月)、6月22日(月)、
9月28日(月)、12月21日(月)
14:00～15:30 会場…ベルウッド
司会：岸本隆司 演奏：ピアノ 荒木あゆみ、
アコーディオン 比企野芳郎、ギター 植田元則、
クラリネット 大澤泰 参加費：1000 円

◆ベルウッド CD の会

リーダー長岡壽男氏
2月、4月、6月、8月、12月の第1 金曜日
16:00～17:30 会場…ベルウッド
参加費：1000 円

◆麻殖生健治氏の午餐会

◆齋藤悦子氏の勉強会

◆第8回リタメン会（幹事：伊丹 淳一 氏）
5月12日(火) 池田カンツリー俱楽部

◆高野山バスツアー 7月16日(木)

◆第7回講演会

「国際情勢について」仮称

講師：森本 敏 氏

（拓殖大学総長、元防衛大臣）
10月2日(金) 14:30～16:00
ホテル・アイボリー

＜キョウヨウ・キョウイク・エイヨウ・
ショウショウで健康ライフ＞

関西支部長 阿賀 敏雄

090-1896-4575

5. 東京地区行事のお知らせ（事務局）

◆東京地区 第7回りらいふ落語会

5月26日(火)
開場：12:30 開演：13:30～15:30
会場：お江戸日本橋亭 チケット：2000 円
出演：桂 三若、登龍亭獅筆、三遊亭西牟婁

お問い合わせ： 事務局・島村

080-9982-6237

メール：haruo_shimamura@hotmail.com
メール：menocasablanca@gmail.com

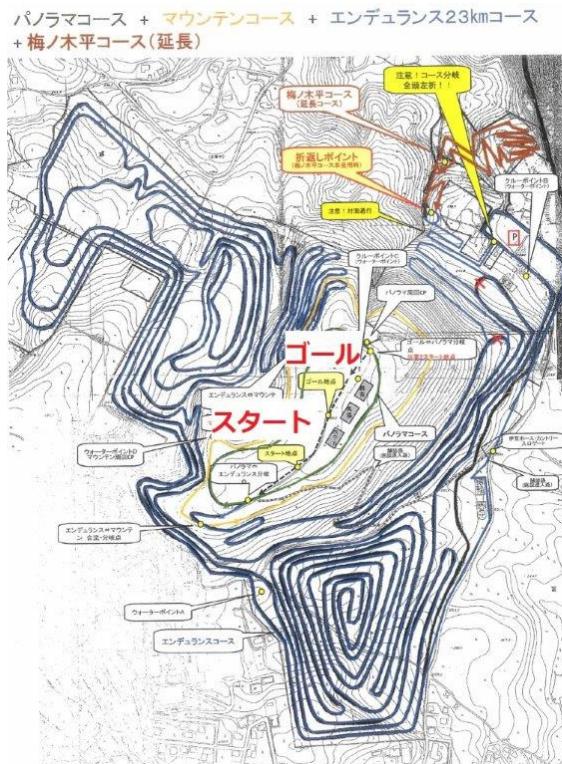


6. 伊豆の大会にでました

会員 烏居 雄司

会場は伊豆です

今回出場する大会は伊豆です。これまで参加したエンデュランス(距離)競技はすべて北海道でしたが、本州は初めてです。乗り物が行き交う公道のコースを避けるために、広い北海道、乗馬の牧場が多く山深い山梨県小淵沢などで多く大会があります。今回は静岡県伊東市の伊豆急行「富戸」駅が最寄りの牧場です。国道から入った山全体を所有する牧場に常設されたコースを使います。ここは毎年4月に距離160kmの国際大会を開いています。



距離競技なのでコースを設定するために工夫がありました。長距離の直線をとれないで、所有する山と周辺を一筆書きでニヨロニヨロまわり、距離を稼いでいます。そのため一般公道と無関係に走ることができます。一筆書きに走るので道を間違えることが少なく、道に向ける注意をより一層馬に向けられます。コースの一部に公道が入

ると緊張します。車の通行規制や事前の大会実施広報、また競技役員の立ち合いなどが準備されます。しかし、蹄鉄を着けた馬は舗装路で滑りやすく、周囲の変化に反応する馬の動きに対応できずに落馬の恐れもあります。舗装路の落馬は恐怖です。

牧場の持主はかつて北海道で馬を育て、エンデュランス大会に参加し、その後に自前でコース、乗馬施設、宿泊施設を備え、国際大会を開ける環境を整えて、年間を通して伊豆で大会を開催しています。また、アメリカ合衆国のテヴィスカップ160kmを8回連続で完走しています。

4月中旬の大会なので、天候にあまり注意を払わずにすみます。長距離走行の気温としては10度前後が快適です。コースを走行している時はそれほど汗をかくことがなく、獣医検査や馬を休ませる強制休止の40分間も寒さを感じません。マラソンの最適気温について、トップクラスの市民ランナーで10度以下、それより遅いランナーで11~13度と書いてある記事を見たことがあります。妙に納得しました。

ドサンコ 17歳の雌馬に

エンデュランスも他の馬術競技同様に馬の運動能力に大きく頼っています。私はこの大会を運営している牧場でドサンコをお借りしました。ドサンコは北海道の在来馬で競馬のサラブレッドに比べて小さくすんぐりしています。速さを目指して品種改良されたサラブレットは時速60km程度で走りますが、ドサンコは時速40km程度と言われています。その代わりに骨格が丈夫で蹄が固く力強いので山道を気にせず荷物の運搬に活躍していました。

登り下りが多い今回の山コースはドサンコに向いています。大会前日の獣医検査で1分間の心拍数40拍など、大会に参加できる良好な体調でした。出発は翌朝6時で、区間①30km、区間②30kmの合計60kmを走行制限時間7時間以内で走ります。区間①と②の間で獣医検査を経て馬を休ませる40分間を加えて13時40分までに区間②をゴールすれば獣医検査の結果次第で完走になります。



区間①を 3 時間で走行する予定で出発しました。この馬は 17 歳で、エンデュランス馬としては経験豊かで体力のある馬齢です。競馬は 3 歳、4 歳の馬が走っていますが、エンデュランスでは馬体がしっかりしてくる 10 歳くらいから 20 歳くらいの馬の出場を多く見ます。私は週 1 回の頻度で乗馬クラブへ通っていて、特定の決まった馬ではなく、その都度あてがわされた馬に騎乗しています。通っている乗馬クラブは約 130 頭の馬を所有し、日本で最多馬数のクラブという話を聞きました。私が騎乗した馬の名前を数えると 144 頭になりました。すでに引退した馬の名前も含めて、クラブの現所有馬数をこえています。

今回の馬は雌馬で、元気だけれど慎重な走行をしました。急な登りにさしかかると、速度を保とうとするためか速歩から駄歩に歩様(脚の運び)を変えて頑張ります。けなげな馬です。駄歩は速歩に比べて揺れが少なく速く走ることができます。一方速歩の揺れは大きいですが、馬の疲労は少なく、速度も十分なので馬にとって効率的な歩様です。エンデュランスは区間走行後の獣医検査を通過しないと完走にならないので馬の疲労が気になります。区間①のゴールが近づき、給水所で、気になっていた水を飲んだので残りの 2km を急がない速歩で獣医検査を意識しながら走りました。獣医検査では 1 分間の心拍数が 48 拍で 64 拍未満の条件を満たし、前進気勢(馬が運動しようとする状態)だけが A から B 評価になって通過しました。区間①は出発から獣医検査にはいるまで 3 時間の予定にたいして 3 時間 1 分でした。

区間②の出発までに馬が十分に休み、餌を食べて体力を回復してほしいところです。ところが餌を全く食べないので残りの 30km が心配です。馬の様子をみたり、ある程度強いて馬の口に餌をはこんだり、最も重要な水分不足にならないよう電解質を水に溶かして、スポーツドリンクのように吸収しやすくして飲ませたりしました。

区間②のコースは区間①と同じで、見覚えのある景色を通ります。区間①で駄歩だった坂が速歩になったり、同じ速歩でも速度が落ちたり、馬に多少の疲れが見られました。区間①では、馬の気分転換を考えて時々駄歩にしたり、急な下りでは常歩にしたりしましたが、更に気を付けて馬が飽

きないように、負担がかからないようにしました。

区間②は途中 2 か所で馬が水を飲み、安心してコースを進むことができました。無事にゴールすると所要時間は 3 時間 32 分でした。区間①より 31 分多くかかっています。

最後の獣医検査では腸音の評価が 2 段階下がりました。その一方で前進気勢の評価は 1 段階上がりました。そして、1 分間の心拍数は 56 拍なので問題なく検査を通過して完走になりました。



MOON のおかげで

今回の馬 MOON は、走ることに前向きで全力を尽くして走り切ろうとする様子が伝わってきます。6 時間 30 分程も騎乗していると互いに相手の様子が分かるような気がします。エンデュランスは他の乗馬種目と比べて、騎乗を経験しないと見ても楽しさが分かりにくい種目だと感じています。競技終了後は右脚のフクラハギが痛み、階段をおりるのが不自由でした。そして、尻の右座骨あたりが痛み、座るたびに響くのでゆっくり腰を下ろそうとしますが、右脚の踏ん張りが効かなくてドスンと座り痛いです。原因は騎乗の姿勢が傾いているためで次回に向けての課題です。



7. 喜寿を振り返って 【第三部】

会員 伊丹 淳一

【第三部】



筆者が全日本スキー連盟一級取得した頃

ここで人生に少なからず影響を与えたスキーについて第一部でも少し触れ、重複するところがあるって恐縮ですが、もう少し詳しく振り返ってみたいと思います。私が初めてスキーをしたのは昭和25年、小学校四年生の時であったことは既に記しましたが、当時は戦後の混乱期でもあり、呑気にスキーをしている場合ではなかったと思いますが、父が大学を卒業してから大阪府庁に勤務していた頃、大阪市内の自営業のオーナーを集めて「近畿スキー同好会」を立ち上げ、その後長年会長としてお世話をしていました。この頃のスキー場は、あの広い志賀高原の丸池に進駐軍の娯楽用シングルリフトが一本あつただけで、現代の様なスキー場もなく鉄道を乗り継いで最寄りの駅まで行き、そこから民宿までスキーとリュックを担いで1時間位は歩くといった有様であったことも第一部で記しました。

当時、近畿スキー同好会は毎年元旦の夜、難波の湊町駅から関西線周りの夜汽車に乗って直江津方面に向かい、菅平や志賀高原、八方尾根、赤倉、野沢、戸隠などに向かい5日の夕刻に帰阪するという日程でした。夜汽車は硬い直角の背もたれ椅子で油引きの床、段ボールや新聞紙を敷いて温かいもので身をくるまって寝る人や、網棚で寝ていた人もいた時代でした。夜汽車は煙を吐く蒸

気機関車で、トンネルに入る前には「おーい、窓を閉めろー」との声が必ず飛び交っていた記憶があります。

当時の民宿は今の様な旅館ではなく、一般農家が雪で閉ざされ冬ごもりをしている時に貸布団を用意して貰って泊めて貰うというもので、大きな座敷に置き炬燵を中央に置いてぐるりと360度布団を並べ、力ちカチの硬い布団で隙間が空いて寒いため、セーターを着て寝るとか丹前に腕を通して上布団の間に入れない寒くて寝られないという状況でした。白米と卵、野菜類は新鮮でとても美味しかった記憶がありますが、おかずは粗食で味噌・醤油は自家製。特に醤油はうす口醤油よりもうすく、塩辛い味だったことを覚えていました。それでもスキーをしてお腹が減って、出されたものを何でも食べないと好き嫌いを言つたらそれ以外に食べるものは何もありませんから、父は好き嫌いを言わせない為に連れて行ったと後述していました。

1953年
八方尾根
第二ケルン
に立つ父
(バックは白馬)



ゲレンデとは名ばかりでリフトがある訳でもなく、自分たちで新雪を踏みつぶしてゲレンデづくりをしてからそこで滑るというのですが、この頃はスキーツアーとして菅平から根子岳や熊の湯から草津温泉へ、また今ではリフトに乗って1日に何往復も出来る八方尾根の黒菱の小屋まで上ると、小屋で一泊して翌日滑って降りるという時代で、ツアーにはよく連れて行って貰ったものです。



私は小学校4年生から6年生までの3年間は父に同行しましたが、取り立てた理由なく中学～高校と6年間のブランクがあって、大学生になってから50歳を過ぎるまで毎年お正月を家で過ごしたことはなく、いつもスキー場でした。その頃には近畿スキー同好会が大阪府スキー連盟の会員団体となり、毎年年末から出発し3日の夜に帰阪する日程になっていました。この間、学校の友人、会社の仲間、親戚の従妹たちと出かけたスキー華やかなところがありました。

大阪府スキー連盟では実力ごとに班分けしてスキースクールを開き、毎年1月2日に全日本スキー連盟公認のバッジテストを実施していました。滑り方はともかく小学校からスキーに馴染んでいた私は、初年度の大学1年生の時に3級、2年生の時に2級、その翌年の昭和38年に1級に合格し、スキー連盟のお手伝いやその後近畿スキー同好会の会長を担うなど、一人でも多くスキー大好き人間を育てようと尽力した、と言えば格好良いのですが、自分が好きで深みにはまっただけと自認しています。

ツアーでは列から離れて行方が分からなくなつた人がいて、手分けして探し難を逃れたことがあれば、スキー場で骨折した人を背中に担いで滑り降り、病院に連れて行ったこともあります。それも今になって思い出せば楽しい時代でした。小学生時代の近畿スキー同好会のお正月スキーは、総勢30人程度の団体で、夜は用意されいろいろなゲームをして、それは楽しい時間でもありました。何しろ宿から一歩外に出ると今の様にコンビニがある訳でなく、飲食店や土産屋がある訳ではありませんから、そんなことをして皆でわいわい遊んだため全員が親しくなつて、近年まで稀な絆になつていたと思います。父曰く、これもスキーだと。

スキーの想い出で面白いことがありました。昭和44年(1969年)2月、会社の連中数人と志賀高原・法坂スキー場でシチズン主催の三浦雄一郎と滑る催しに参加し、スピード記録の認定書を貰った後、私が内緒で女装して女子の部の滑降に参加し、最後にダイナミックに滑ったとき観客からドッと歓声が沸き、ゴールしてから女装を外して正体を現したらまたドッと歓声と拍手を浴びせられて大笑い。三浦さんから「何だ君か・・」

と握手。



三浦雄一郎氏主催のスピード記録認定書

その夜松明(たいまつ)を持って三浦さん達とトレーン(数人で列をなして滑走すること)をしましたが、松明の油火が飛び散ってスキーウェアに穴が開くことを知っていたため、私だけ旅館の丹前を着て滑ったため当然丹前は穴だらけ‥。その後のことはご想像にお任せします。

北海道の恵庭にも私が勤めていた会社の工場があって、40歳代後半から毎年大阪や東京などから有志が集まり、ニセコやルスツなど北海道各地で現地の連中と合流してスキーに興じていましたが、いつの間にか「伊丹スキースクール」と称するグループを編成され、何かと世話をさせられながら63歳位まで毎年北海道に出向いていました。この頃から徐々にスキーから遠のいていましたが、昨年高等学校2年生の時に1級のバッジテストに合格している次男から、孫と一緒にスキーに行こうと誘われ、ボート時代に痛めた膝を庇いながら15年振りにスキーを履いてみると、体が反応して若い人たちと遜色なく滑れるものだと実感しました。

それにしても思えば、戦後30年でスキー場も道具も滑り方も全てが大きく進歩し、スノーボードが席巻するなど目まぐるしく変化する中で、温暖化によりスキー場の雪が不足し、お正月でさえかつての有名なスキー場が雪不足のため滑ることが出来ないとの記事に触れ、スキー大好き人間の私は心を痛めています。

さて、大学を卒業して何処に就職するか。大学ではゼミで「ヒューマンリレーション」(人間関係論)に関する勉強を少しした位で、相変わらずロクに勉強もしないでどうなることかと思いながらも、これからの時代はプラスチックが普及し



て面白そうだという思いと、一方では「車社会」になると確信していました。たまたま父親の知人に日産自動車の常務さんが居られて、整備の勉強をさせて貰うために就職を頼もう。そして、丁度16m道路の神崎・刀根山線に面した550坪の土地が空いていたので、そこでガソリンスタンドと整備工場を設立するという構想でした。

一方、これからプラスチックが普及する時代になることも確信していたので、プラスチック製品の加工会社に就職したい、というのがもう一つの希望でした。

父親に相談してみると「プラスチックなら大日本セルロイドという会社があり、そこの渡壁全一さんを良く知っているから頼んでみるか」ということになって、ボートの全日本選手権が終わって暫く経った1963年（昭和38年）9月初め、豊中市の桜塚にある渡壁全一さんの自宅を訪ねました。

渡壁さんはダイセルの技術担当専務などを歴任し、ダイセルの子会社であった富士フィルムをはじめ、富士ゼロックスやダイセルグループ会社、美津濃スポーツ、ヘンミ計算尺、福助足袋など、異業種も含め随分多くの企業がこの渡壁さんを技術顧問として迎えていることを知りました。その渡壁さんから「慌てて就職せんと、大学院か海外留学でもしたらどうか」と言われて、内心そんな事をしたらまた遊んでしまうと思い「やはり就職をしたい」とお願いしたところ、今度は「ダイセルの子会社で大日本プラスチックスという会社がある」「そこは昭和31年の創立以来7年間、ずっと赤字でこれ以上悪くならんし、ダイセルは潰しもせんから勉強になるのでそっちへ行け」と言われる。心配になって父親に「渡壁さんとはどういう関係で知り合ったのか」と聞くと、阪急宝塚線の三国駅前のビリヤードで知り合った人だと言う。ますます不安になりましたが、父の弟である叔父も渡壁さんの紹介でダイセルに入社したと聞き、少し不安が遠のいたのを覚えています。入社試験が日産よりかなり早かったものですから、結果としてその会社「大日本プラスチックス株式会社」（現ダイプラ株式会社）に入社することになった訳です。

ここで「渡壁全一」という人がどれほど凄い人だったかについて、少しご紹介したいと思います。

この方は「尋常小学校」しか出ていない人ですが、技術者として努力と苦労を重ね、先程申し上げた通り富士フィルム、富士ゼロックス、カメラの富士工機、ダイセルのグループ会社はもとより、美津濃スポーツ、ヘンミ計算尺、福助足袋など異業種からの要請も受け、技術顧問として毎月一回各社の技術会議に出席して指導されていました。

渡壁さんは「〇〇に聞け」、つまり「そのものに聞きなさい」というのが口癖でした。例えば、魚釣りが好きで川へ釣りに出かけます。いくら釣れないといっても2~3匹の魚は釣れます、我々なら「今日は釣れなかった」で終わってしまうが、渡壁さんは「釣りたかったら魚に聞け」となる訳です。つまり釣れた2~3匹の魚の腹を割いて、ここの魚は何を食べているかを調べ、次からそれを餌にして釣る訳です。周りで釣れない人が、場所が悪いと思って渡壁さんの近くにやって来て、糸が纏れんばかりに集まつてくるけれど、やはり釣れるのは渡壁さんだけ。「おたく何で釣っておられるのですか?」、「君たちは何で釣っているの?」「うどん粉ですが・・・」「ああ、ここに魚はうどん粉を食わないよ」。それが土蜘蛛であったり、ミミズであったりという具合です。

渡壁さんのお宅にお邪魔しますと、「お宅は植木屋さんですか」と言われる程、玄関には見事な盆栽が何点かありました。たまたまお邪魔したその時に「あ、こいつあかんわ。苦しそうにしている」と言って、奥さんに新聞紙を持って来させ、苔の手入れも見事なその盆栽をバサッと引き抜いて、バラバラと土を落とし、根っ子にハサミを入れながら「やっぱり根が押し合いへしあいで、苦しいから間引いてくれと言っている」と。応接間の扇風機は、GEの4枚羽の黒い鉄製で「ブーン」と音を出しながら、重そうに回っている。奥さんは「涼しそうなプラスチックの羽が付いた扇風機を買って欲しいのに、調子が悪くなるとすぐ扇風機に聞いたらいいと言って修理するのでいつまで経ってもこれですわ」と苦笑い。この奥さんはビスケットが大好きで、松屋町筋の菓子問屋街まで電車を乗り継いで出かけられるのですが、「味は一緒だから、家で食べるのなら割れたビスケットを買ってくればいい」と言われてからは、買ってくるのは割れたもの。同様にバナナも枝離れしていても味は一緒で、値段は半値といった具合。



お金が無くて困る人ではなく、あり過ぎて困った位の人。渡壁さんもお父さんもクリスチャンでしたが、大阪市北区の東通り商店街、以前あった大阪中央病院近くの聖パウロ教会は、この渡壁さんの淨財寄進により建設されたもの。従って、昭和50年に大阪回生病院で亡くなられての「お別れ会」は、この教会で執り行われました。桜塚高校の横にあった渡壁さんの屋敷は120坪の広い敷地でしたが、建屋は古く生活は先程のビスケットやバナナの如く合理主義で極めて質素。そして、お子さんはお嬢さんが2人でしたが、「子供にお金を必要以上に持たせるとロクなことは無い。子供には1千万円と金一貫目」と決めておられた。この頃の1千万円と金一貫目(3.75kg)でも可成りの資産ではありましたが・・・。

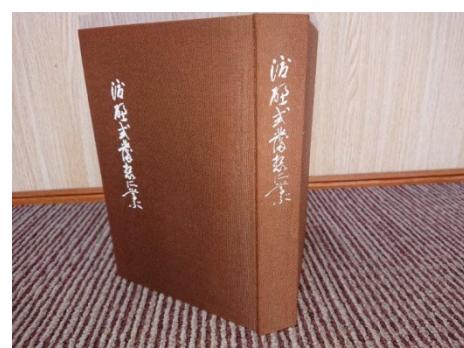
この渡壁さんが何故、美津濃スポーツの技術顧問?と疑問に思われるかも知れませんが、父上の渡壁儀一さんと美津濃スポーツの創始者、水野利ハさんとの付き合いがそれまであって、その後代替わりした渡壁全一さんが、スキーの板がヒッコリーの単板(1枚もの)で造られていた頃、1枚取りでは歩留まりが悪すぎる(無駄な部分が多くすぎる)として、ヒッコリー材をスライスし貼り合わせる合板式を考案、更に上部に傷がつきやすいから、セルロイドのシートを貼り合わせるという画期的な考案をされ、今のスキーの原型を生みだされています。

また、日本ではごく一部の人しかゴルフをしなかった時代に、当時の水野健次郎社長から、「アメリカに輸出するゴルフクラブの新商品に知恵を貸して欲しい」と要請を受け、ゴルフをしたことの無い渡壁さんが「クラブフェイスに象牙を埋め込み」と指示された。説明を聞くと「俺は玉突きが好きだから良く知っているが、玉突きの玉というのは象牙で出来ていて、反発力が他の素材の比ではなく、しかも弾いた球の行方(角度)が極めて正確」とのことでした。当時は未だ象牙が資源保護の対象として、喧しく言われていない時代だったので、早速指示通り象牙をスライスしてクラブフェイスに埋め込み、アメリカに輸出したところバカ受けの大ヒット。「グランドモナーク」というブランドで、美津濃スポーツに貢献したというエピソードがあります。その後オーストリアの「ケスレー」という有名なスキーメーカーから要請を受けて技術指導された記録も残っています。

「ヘンミ計算尺」と言っても知らない人が居られるかも知れませんが、鉛筆より少し大きめで三角棒のような形をしたものなど、スライドさせながらメモリを合わせて計算するもので、技術者はいつも胸のポケットに入れていて、必要な都度取り出して計算したものです。従来計算尺の本体は孟宗竹で表面は象牙でしたが、象牙をセルロイドに切り替えると共に、竹の切断方法に無駄が多いとして指導され、大幅なコストダウンを実現された。

竹は温度や湿度の影響を受けて変化しにくいため、昔から物差しは竹で作られており、この竹とセルロイドの組み合わせで「計算尺と言えば、ヘンミ計算尺」と世に言わしめ、計算尺は「ヘンミ計算尺」が独占したと聞いています。

東京オリンピックがあった1964年、富士フィルムがオリンピック需要で写真フィルムを増産するための設備投資を決めようとした時、「オリンピックが終わったらその設備はどうなるのか」との疑問を渡壁さんから投げかけられ、設備投資を極力抑えて増産できる方法を伝授するなど、そのアイディアとノウハウは数多く、その一例として35mm判フィルム用パトローネ(充填容器)の製造に関し、コダック社のパトローネを取り出し「このパトローネの指紋を調べてくれ」と言われる。何のことかと思ったら、案の定指紋らしきものは全く付いていない。ということは、彼等は全自動で造っている。手袋をはめて指紋が付かないようにしながら手作業でやつていては勝てないと言い、程なく富士フィルムも全自動で製造できるようになったという具合。



渡壁式発想に学ぶ

数え切れない数々の語録をまとめた「渡壁式発想に学ぶ」という本が、非売品ですか春木栄社長



（後に会長）監修で富士フィルムから発刊され、関係者に限定で配布されました。小生も一部貢献しましたが、富士フィルム足柄工場の「渡壁資料室」に胸像と考案された数々の機械や製品と共に保存されています。

さて、私の入社時の配属先は「人事部」。その年の秋に当時の社長から「メーカーの人事は労務管理が出来ないといかん。2年程松戸工場（千葉県）へ行って労務の勉強をしてこい」ということになり、松戸へ行ってみると当時の松戸は殆どの道路という道路が未舗装で、一度雨が降ると長靴でなければ歩けない。自動車が来たら上にさしていた傘を横に向けて、車が跳ねる泥を傘で受けて服にかかる様にするというほど酷いものでした。「稔台」という新京成の駅前には呑み屋らしい店が殆んどなくて、宴会が出来る広間のある店と県道沿いに赤ちょうちんの屋台が一軒ずつあるだけ。それが今や松戸市内の道路は全て舗装され、飲食店が軒を連ね、都内近郊とあって人口が何倍にもなって発展しています。

「マツモトキヨシ」という薬局をご存じだと思いますが、当時松戸市小金で薬局「松本薬舗」（まつもとやくほ）を開いていた松本清さんという人が松戸市長に当選され、この人が公約通り道路を全て舗装されたわけです。「松戸市というところは将来人口が増加するので、人口が増えてからでは後手になる」と言って、千葉県からの予算を先取りで借金させて欲しいと県を口説き、市役所庁舎の建設も将来を見込んで高層にするなど、とてもやり手の市長でありました。

この人を有名にしたことの一つに、市役所の中に「すぐやる課」というのを新設し、市民から「下水路が詰まった」、「〇〇の道路に穴があいている」、「水道が漏れている」といった苦情や要請が入ると、20~30分後には長靴を履いた係員が、道具一式を積み込んで現場に現れすぐ直してしまう。人手が足りない時は、課長自ら出向いて善処する。これがテレビで放映され、松戸の市長はやることが見事と評判になり、並行して薬局も大繁盛。当時ではダイエーなど薄利多売が始めたころで、アメリカで学んだチェーンストア理論を展開し、昭和62年に上野のアメ横に薄利多売の店舗を開設して、一気に業容を拡大し成功した「マツモトキヨシホールディングス」は、今や全

国に1,654店舗を持ち、資本は220億円、グループ従業員は14,600人、売上高は5,760億円、経常利益は390億円という東証一部上場でドラッグストアー日本一の大企業になっています。

さて当時会社では学歴によって大学卒の「職員」と中高卒の「社員」という区分をしており、ホワイトカラー、ブルーカラーという言われ方をした時代でもありました。松戸工場には1人一部屋の借り上げ職員寮が4つと、鉄筋の4人一部屋の社有社員寮が2棟、妻帯者向けの社有社宅が1棟ありました。本来であれば私は一人一部屋の職員寮に入ることになるのですが、自ら志望し社員寮に入れてもらって現場の人達と一緒に生活しました。120名収容出来る社員寮に115名入っていた時でした。ところが入ることを決めた途端、寮長が「僕は来年2月に結婚するから、後は君が寮長をやってくれ」と言う。寮長になったのは、入社した翌年の昭和40年のことで世の中は大不況。同業の殆どの会社も希望退職を募って人員整理をした年もあり、当社も約800人いた正社員を480人程に減らした年もありました。松戸工場だけでも250人余りの従業員が希望退職に応じ、115人居た寮生が半分に減った時は辛い思いをしたものでした。

そして、都内の蔵前にあった東京営業所を経費節減のため松戸に移し、電子計算機と呼ばれた今の電卓が無かった時代、力チャカチャとタイガー計算機を回しながら、そろばん片手に給料計算していたあの頃は、必ず一晩は徹夜して、翌日も終わるのが夜10時~11時頃で、そうしなければ25日の給料日に間に合わなかった大変な時代でした。従って、毎月給料日の来るのが早いこと。この前 計算して支払ったと思ったら、もう給料日かと…。給料日が待ち遠しい人が多い中で、本当に給料日の来るのが嫌でした。しかし、給料日は嫌でしたが給料は大好きでした。

その翌年、入社2年が過ぎた春、組合の中央執行委員に推され選挙で当選。松戸から3人選ばれて、大阪本社で昇給・賞与・労働条件など労使交渉を行う訳ですが、この時には随分勉強できました。そして、国家試験の労務管理士の資格も取り、次の年には中央執行委員長にまでなって、一方では労務管理と寮長をすると



いう、今では考えられないことをやっていました。

社員用独身寮には、酒を飲むと人が変わる強者が数人おりまして、呑んだら必ず喧嘩をするか器物を壊していたのですが、ついには交番の前に停まっていたパトカーを蹴飛ばし、出てきた巡査を一人が羽交締め、もう一人が殴ってしまうという事件を起こしてしまいました。公務執行妨害で逃げた二人を松戸警察が捜査していることが分かり、工場長はじめ関係者が集まり、逮捕される前に捕まえて自首させようと夜を徹して探したが見つからない。翌日、友人のアパートに居ることが分かって自首させ、留置場に差し入れもしましたが当然会社は就業規則違反で解雇。この二人を上司の友人に頼んで再就職させ、その後は眞面目に定年まで勤めたとの報告を受けて嬉しく思っています。

また、寮のガラスや便器など、酔っぱらって器物を壊すと全額給料から天引きしたものですから、器物を壊すような連中は、付けて呑んで給料を貰ったら借金を返済し、また次の給料を貰うまで付けて呑むというパターンだった訳ですが、天引きされたら手取りがゼロの時があり、天引きされた腹癪せに、酔っぱらって夜中に小生の部屋へヤッパ（ナイフ）を忍ばせて脅しに来る。そんな事で怯んでいては寮長が務まらない。同室入居者が寝ているので表に出して説教し、当時の給料は三食の食費代など寮費を差し引けば手取りが一円立替えてやる。立替えると言ってもこちらは返して貰える金とは思っていなかったのですが、ある日その男が「退職して出身地の島根県に帰る」と言い、退職金の清算も済ませたその日の夕刻 私の部屋に現われ、涙をためて「お世話になりました」と言って、36,000円の金を封筒に入れて返しに来たのです。「君にお金を上げたことはあるが、貸したことは無い」と言うと、手帳を取り出して几帳面に何月何日にいくらと金額を書いたメモを示し、これこの通り借りていますと言う。そこまで言わいたら・・・嬉しかったですね。「よし分かった。今からその金で楽しい酒を飲みながら、お前の送別会をしてやろう」と、松戸の街まで出かけて思い出話をしながら・・・あの時の酒は本当に旨かった。やはり人間甘やかしてはいけない。愛があれば厳しくても人は付いてくると思いました。いや、厳しい方が効果はあ

ると思いました。

それでも過ぎた悪戯や悪さを強制的に是正することはそんなに難しいとは思いませんでしたが、悪さをしなくなった若者に良い趣味を持たせるとか、将来目標を考えさせ、それを実行させるというのは本当に難しいと感じました。

「会社の独身寮を建設する」という名目で農地を600坪購入し、農業委員会に申請して農地を宅地に変更。この土地を道路も含めて一人50坪で、12名の希望者を募り、結婚後のマイホームを持たせる指導をするという取り組みをしたことがあります。

会社が一旦購入しておいて、手の届く範囲の頭金とする一方、親御さんからの一時借り受けなども含め、毎月の給料と年2回のボーナスで返済していく。これはその後の発展と土地値上がりもあって、結婚してからでは手に入れにくい財産になったことは言うまでもありません。この連中は借入金返済がありますから、無駄遣いは出来ないので賭け事は殆どしない。お金を大切に遣う習慣がついて、勢いばかりの酒は控えるなど、一石二鳥で良かったと思っています。

図書室や仲間と語り合う団欒室を作ったり、麻雀・囲碁・将棋などに興じられる娯楽室を作ったり、中庭に寮生たちと一緒に池を作り魚を放ち、釣りをして遊んだり、グループを作り毎月積み立て、旅行の計画をさせる。

運動会や花火大会等をして仲間意識を持たせる等々、本当にいろいろ仕掛けたものでした。そして自分で採用し、自分と一緒に寮で生活し、一緒に仕事をしてきたそういう仲間も既に60歳の定年を過ぎて卒業していますが、今でもOB会やゴルフ会を催す度に、松戸に呼んでくれて一緒に楽しくやっています。

2年と言われた松戸行きが、結局5年6ヶ月いた訳ですが、毎月本社で開催されていた労使経営協議会に出席のため大阪に帰省していました。26歳を過ぎたころから見合いの話が舞い込むようになり、出張で帰省していても見合いのためには帰省してきたように振る舞い、つまり旅費は会社から出るのに家からも旅費を受け取るという調子で、余裕のある独身生活を送ることが出来ました。多分、母親は承知していたと思うのです



が・・分かりません。

そして13人目の見合い相手である今の家内、旧姓 西田好子と万博のあった1970年（昭和45年）5月2日、28歳の同じ年で結婚。何故、日にちまで言うか・・・・
後日分かったことですが、偶然両親の結婚記念日と同じ
5月2日だったのです。



自分で縫った
ウエディングドレス
を着た奥様



結婚式の写真

家内の実家は神戸市中央区下山手通、阪急「花隈」駅から徒歩で1~2分のところで「西田歯科医院」を開業している歯科医の娘で5人兄姉弟の4番目。神戸女学院の中等部から大学では英文科を専攻し、趣味は絵画で油絵ほかパステル画なども描く。小磯良平画伯の一番弟子の西村元三郎先生にお世話になり、小磯先生にも見て貰う機会があったそうです。長年家族付き合いの間柄で小生もよく存じ上げていました。

そして、松戸で新居を借り上げて、全ての荷解きが終わらぬ内に「本社に帰って来い」と言われ、どういうことかと尋ねたら、本社人事部主任のF氏が急遽退職することになったので、後はお前がやれということでした。

人事部主任の仕事もそれなりに忙しかったの

ですが、松戸より時間の余裕があつて良いなあと思っていた矢先、その翌年（昭和46年）に、これまでダイセル100%の子会社だった大日本プラスチックスに、徳山曹達（今の「トクヤマ」）の資本参加があり、ダイセル60%、トクヤマ40%の会社に変わりまして、その次の年（昭和47年）にはダイセルから転籍していた役員・部長級の退職勧告が実施され、バタバタと退職金の計算ほか退職手続き等々、また嫌な思いをさせられた記憶が鮮明に残っています。

本社の人事部に配属が変わった頃、「君、甲南大学出身らしいなあ」と声をかけて貰ったのが、その後 今日まで仕事面での指導はもとより、公私ともに温かいご交誼などあらゆる面で、お世話になったK氏でした。

鋭い感性の持ち主で、B型特有の個性があり、仕事には厳しいが愛情豊かな、本当に魅力のある方で、小生が最も尊敬している人でもあります。

その頃は輸出を担当されていて、「俺の後、君が輸出をやってくれ」といわれ、それまで業界のトップであった塩ビ波板の輸出は、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、デンマーク、オランダ、ベルギー、スイスなど、殆どの国々に輸出していく、しかも国毎に波板の形状が違いますが、全ての国の波板を造るのは業界の中で当社だけでしたから、引き継いだ頃は毎月350トン~500トンの波板を輸出しその頃がピークでありました。

昭和48年（1973年）、オイルショックがあって、トイレットペーパーが店舗の棚から消えて無くなったのを覚えておられると思いますが、その年 運の悪いことに出光石油化学のプラントが爆発事故を起こし、原料の塩ビが入って来ない。その時は既に400トン以上の輸出を成約していましたが、国内では1枚でも欲しいと営業所間で取り合いをしている時でもありました。

ヨーロッパ各国の主要顧客を訪問し、1ヶ月かけてお詫びと共に大幅な値上げを余儀なくされて、初めての海外出張は辛い思い出ばかりでした。

そのオイルショックが落ち着いたころには、国内需要も輸出も陰りが出て来て、当時の社長から「伊丹君、ヨーロッパに工場を作ったらどれ位金が必要か」、「何トン売れば採算が合うか」と宿題を出され、当時輸出の窓口としてお世話になって



いた住友商事にも手伝って貰って猛勉強。しかし、製造ノウハウはあるものの、あまり付加価値の高い製品でもなく、現地の労務管理などリスクが大きい割には、魅力のある計画が出来上がらない。

そうこうしていたら、ヨーロッパのICI（インペリアル・ケミカル・インダストリー）という世界でもトップクラスの化学会社が、一緒に波板を作つてヨーロッパ各国に売りましょうと、ジョイントベンチャー（共同経営・合弁）の話を持ちかけてきた。ICIが相手なら身に余る光栄で何も不足はない。喜んで話を進めて行くと、「いろいろ検討したが既に自社に波板を造っている子会社があり、合弁をやると二重投資になるので技術を売つて欲しい」と言ってきた。

東京大学・大学院卒でプライドの高い技術屋の社長は、技術は売つてしまうと後に何も残らないから嫌だという。しかし、台湾の安い製品がイギリスにも入り始めており、どんどん輸出量が減つてこのままでは結局何も残らなくなる。

それなら喜ばれるうちに技術を輸出して、それを契機にICIと技術交流を続けて行つた方がベターであると、社長を説得しロンドンに飛んで貰つて、紆余曲折はありましたがめでたく成約。記者会見で発表した後、昭和49年5月17日付で全新聞7紙が取り上げた記事の内容は、……



ICIは世界最大の化学会社であり、これに対し大日本プラスチックスはダイセルの子会社で資本金4億5千万円の中堅企業。我が国企業がICIから技術導入するケースは多いが、小から大へという今回のケースは珍しい。同社としては豊富な技術と情報を持つICIとの提携を深める

のが最大の狙いという。……というものです。一面のトップ記事を目の当たりにした時は、32歳で課長になってまだ間がなく夢中でしたが、引き継いだ先輩のK氏に少しだけ恩返しが出来た思いがありました。

(次号【第四部】につづく)

8. 18歳と81歳

ヤスコ Wild
NPO 法人関西シャンソン協会理事長
会員 杉山 泰子

18歳と81歳の違い

道路を暴走するのが18歳、道路を逆送するのが81歳。

恋に溺れるのが18歳、風呂に溺れるのが81歳。

まだ何も知らないのが18歳、もう何も覚えていないのが81歳。

東京オリンピックに出たいのが18歳、東京オリンピックまで生きたいと思うのが81歳。

自分探しの旅をするのが18歳、出かけたまま行方が分からなくなつて皆が探しているのが81歳。

「嵐」と言うと松本潤を思い出すのが18歳、鞍馬天狗の嵐勘十郎を思い出すのが81歳。

18歳と81歳の同じこと

選挙権があるのが一緒。18歳は選挙に行かない、81歳は選挙に行けない



9. 2019年11月21日 川島 康生 先生 講演アルバム (会員 石尾 賢一 氏 編集)



発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター (R&I)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 18 階 ヴィップシステム(株) 内

●TEL 03-5860-9483 FAX 03-5860-9477

●事務局 TEL 080-9982-6237

●事務局 E-mail : haruo_shimamura@hotmail.com HP : <http://retire-info.org/>

(発行責任者) 事務局 島村 晴雄